

広告電通賞・朝日広告賞受賞の記録

初めに

起案 飯島康男(元宣伝部広告制作担当)

編集 井堀聖士

日本ビクターは、松下系列会社としてスタートして間もない頃、野村吉三郎社長のもと、決して大企業とは言えない規模の会社であったが、ステレオ、TV、ビデオやレコード部門は、他社とは一味異なった独特の「技術力」「ソフト・ノウハウ」などを有していた。然しながら、営業力、宣伝力については、他の大企業にはとても敵わない。

当時のクリエイティブ作業は、新聞広告など印刷媒体や屋外広告については、ナショナル宣伝研究所(社長の竹岡リョウ氏は松下幸之助のブレーンで、宣伝広告界の重鎮)、ラジオ広告など電波媒体については電通制作部門の協力を得ていた。新聞広告では通常の商品広告に加え、予算は少なく頻度は少ないが、企業広告を重視しビクターの企業コンセプトを丁寧に訴えた。当時の大型新聞広告(1ページ広告)は、会社の規模からすると分不相応であったが、有名大企業に負けない企業姿勢をアピールするよう心掛けた。

「少ない予算で何とか企業イメージを上げる方法はないものか？」と考えた末、「人の心を打ち、共感の波を広げ、注目を浴びる様なクリエイティブ活動を続けることである」と思いついた。

質の高い広告宣伝による話題作りは広告効果を高める効率的な手段であることは言うまでもない。そこで、広告界で、最も権威ある広告賞の受賞を目指したのである。

電通賞と朝日広告賞は、毎年日本の全企業の宣伝広告作品の中から、唯1社のみを与えられる最優秀賞であり、いわば宣伝広告界の金メダルと言っても過言ではない。その常連受賞企業はサントリー、松下、資生堂、トヨタなどの名門企業が名を連ね、とてもまともに戦える相手ではない。そこで制作プロジェクトは、ビクター独自の財産の中から、他社にない魅力を洗い出し、人々の心をとらえる『わざ』を追求することにこだわったのである。

* 他社に無いビクター独自の財産

- 犬のマーク(His Masters Voice-亡き主人の声に耳を傾ける愛犬『ニッパ』の姿)
- 高柳健次郎(「テレビの父」と呼ばれた、テレビの発明者)
- ステレオ/テレビ/VHSビデオなどの技術(生活文化に革新を起こした商品の数々)
- 膨大な音楽ソフト及び映像ソフト(映画・ミュージックビデオ等多岐にわたる)

広告電通賞・朝日広告賞受賞一覧

賞名		年	内 容	サイズ
広 告 電 通 賞	総合広告電通賞	S33	*雑誌広告電通賞「生活に夢を家庭に音楽を！」 (レコード、電蓄、ラジオ、テレビ他)	1 頁
			*屋外広告電通賞「銀座・ビクターマークのネオン」	5段
			*準新聞広告電通賞「あふれるゆたかなこの音を」 (ビクター・オーディオラ-電蓄)	
	新聞広告電通賞	S37	*新聞広告 (優秀賞) 「東京オリンピックに対する1つの提案」	15段
		S41	*新聞広告電通賞 (機械・器具部門) 「耳を立てなにを聞いているの」	15段
	ラジオ広告電通賞	S42	「TVの誕生」 (高柳健次郎をテーマにした、カラーテレビ「ハイファイカラー」)	195 秒
		S43	「八丈島感度テスト」 (12型テレビ・シリコンブラック)	215 秒
		S44	「ビクターステレオSEAシステム」 (新開発SEA機能の解説)	60秒
	屋外広告電通賞	S37	*屋外広告電通賞 (部分賞) 「赤坂・VICTOR/NIVICO扇型ネオン」	
		H元	*セールスプロモーション広告 (屋外部門賞) 「新橋ビクタービル屋上広告塔」	

賞名	年	内 容	サイズ
朝 日 廣 告 賞	S31	*朝日広告賞「ビクターテレビは」 (ニッパ-とVICTOR TV)	半 5段
	S32	*準朝日広告賞「音楽を愛する人に悪い人はない」 (レコード、電蓄、レコードプレーヤー)	5段
	S34	*朝日広告賞「フランクフルト、ニュールンベルグへ小さな花嫁」 (トランジスターラジオをテーマにした企業広告)	5段
	S36	*準朝日広告賞「電子技術に生きるこの人」 (高柳健次郎をテーマにした企業広告)	15段



広告作品は次ページ以降に掲載

第11回 総合広告電通賞(昭和33年)

これらの広告はすべて会社の基本方針である「文化に貢献、社会に奉仕」をそのまま表したものである。
 広告は今や社会生活に必要欠くべからざるものであり、企業はその内容に大きな責任を持たねばならない。
 我々は広告本来の目的を達成するため更に活発な広告活動を行い社会に奉仕したいと思う。
 (S33年当時の百瀬副社長のことば)



ポスター



雑誌



DM



TV



ネオン



新聞

3



ラジオ



ショールーム

広告電通賞(新聞・ラジオ)



昭和37年 新聞広告優秀賞 15段

新聞



昭和41年 新聞広告電通賞 15段



昭和43年 ラジオ広告電通賞 215秒

企画意図・作品内容
ふつう150キロしか届かないといわれるテレビの電波を310キロ離れた八丈島で12型シリコンブラックが見事にキャッチした。その感度の模様をドキュメントに構成、難視聴地域を解消することを実証したその超感度をCMにした。



昭和44年 ラジオ広告電通賞 60秒

企画意図・作品内容
新開発のSEAシステム。これは耳の肥えたステレオファンが、より原音に近い再生音を、という要望から生まれたものである。そこで、「音についての状態」をわかりやすく描き、SEAの持っている機能を説明、再生音を自由に創れることを強調した。



ラジオ

昭和元年十月七日

Screen
Original Figure



企画意図・作品内容

日本のテレビの父としての高柳健次郎氏が、最初のテレビをいつ、どこで、どのようにして開発したかをドラマ風に展開、その伝統を生かしたビクターハイファイカラーの販売販促に役立てるべく企画制作した。

昭和42年 ラジオ広告電通賞 195秒

N あなたはご存知ですか、ブラウン管を使った現在のテレビジョンが、いつ、どこで、誰によって発明されたか……

M (ハーブ演奏)

SE (電子音——宇宙の広がり表現するもの) CFI~BG~CFO

N (高柳氏のモノローグとして)

空はどこまでつづくのか

星はなぜ光るのだろうか

M (おだやかなもの) CFI~BG~CFO (高柳氏インタビュー)

高柳氏 「大正15年の12月25日でしたかね、ただ文字を送っていたんではね、面白くないんで、やはり生きてる人間のね、顔が出したくてね。

それから夢中になってその顔をね、出すようにね、いっしょうけんめい努力をやりましたんですよ。」

N この人、高柳健次郎。日本ビクターの専務、というよりテレビの父として世界的に知られている科学者です。

M (大正後期の流行歌) CI~BG~FO

N 大正12年、高柳健次郎はテレビジョンの研究に着手。くる日もくる日も回転板に穴をあけ、アーク灯の前でまわしつづけた。——だが、像は結ばない……

SE (電子音——電子が飛ぶような音をだぶらせる) CI~BG~FO

男 (高柳氏のモノローグとして、次第に早く)

宇宙……電子……真空を飛ぶ……真空放電の実験……光り……(間)

そうだ、蛍光剤をぬった真空管だ。

N ブラウン管を使った、世界で初めての実験が始まる。(間)

回転板の音だけが聞こえるまっ暗な部屋。高柳健次郎はブラウン管をジッと見つめていた。

黒い線が何本か走った。ゆれた。そして、行儀よく並んだ時——

M CI~BG

N ブラウン管テレビジョン、ついに誕生——。時に、大正15年12月25日。

N テレビジョンの研究一筋に44年。高柳健次郎は、今なお、日本ビクターで新しい技術の開発にあっています。

CMS (カラオケ) CFI~BG~CO

N この、世界に誇る頭脳と最高の技術陣により日本ビクターが完成したカラーテレビ、ハイファイカラー。

CMS CI~CO

そっと目をつぶったら

見えた、お花畑ふりダンス

ふと目をあけたら

見えた、犬のマークのビクター

カラーテレビ わんわん

ビクターカラーテレビ

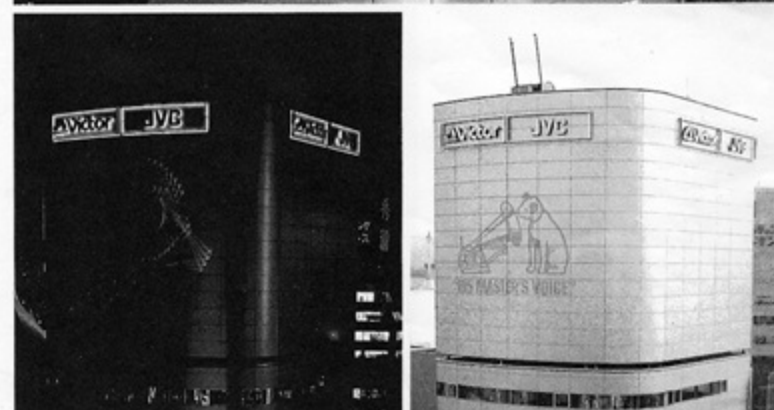
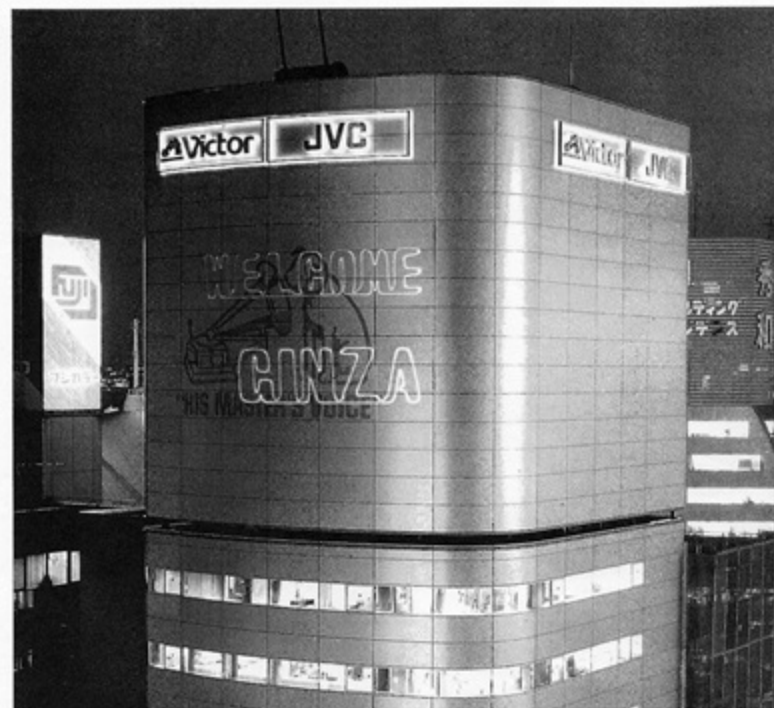
N ビクターカラーテレビハイファイカラーは、テレビジョンの歴史の一ページを新しく飾るカラーテレビです。

広告電通賞(屋外広告)

昭和37年 赤坂扇型ネオン



平成元年
セールスプロモーション広告屋外部門賞
日本ビクター株式会社
屋上広告塔(東京・新橋)



朝日廣告賞

ビクターテレビは
日本のテレビの父と讃えられ
テレビ研究により昨年度常設
展覧をうけた、高野健太郎を
中心とするグループの卓越な
技術に、米國 RCA の技術を
加えて完成したものでありま
して、音と像との鮮やかな立
体調和など、その最高の性能は
權威あるビクターのマークに
よつて保証されているのです

ビクター・レコーダー、ラジオ、テレビ、電燈、磁石装置

昭和31年 朝日広告賞 半5段

[illegible]

昭和32年 準朝日広告賞 5段

無線電・留音機
エレクトロニクス・オーディオ
デパート
電話 411,900
ロンドン・ロンドン・ロンドン



FRANKFURT & NÜRNBERG

フランクフルト
ニュールンベルグ

小さな花嫁

音楽のふるさと、世界最大の音楽家の
故郷に、ニュールンベルグ、フランク
フルト、両市が合併されて、ビタト
ーラング・ミュンヘン・オグの新しい都市
シニア・シティを一新しました。花
嫁に嫁いでください。

世界で一番美しい街に、美しい人
々に、遊ばれた小さな花嫁、ビタト
ーラング・ミュンヘン・オグ、そのす
ばらしい音楽を、美しい花嫁に、そ
の街に、お返しください。





マーチ
ビクター

昭和34年 朝日広告賞 5段



電子技術に 生きるこの人

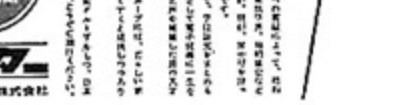
電子技術の発展は、現代社会の基盤を築き、私たちの生活を豊かにしています。この分野に情熱を注ぎ、努力を続ける人々こそ、未来を切り拓く鍵を握っています。

電子技術の発展は、現代社会の基盤を築き、私たちの生活を豊かにしています。この分野に情熱を注ぎ、努力を続ける人々こそ、未来を切り拓く鍵を握っています。

電子技術の発展は、現代社会の基盤を築き、私たちの生活を豊かにしています。この分野に情熱を注ぎ、努力を続ける人々こそ、未来を切り拓く鍵を握っています。

電子技術の発展は、現代社会の基盤を築き、私たちの生活を豊かにしています。この分野に情熱を注ぎ、努力を続ける人々こそ、未来を切り拓く鍵を握っています。

電子技術の発展は、現代社会の基盤を築き、私たちの生活を豊かにしています。この分野に情熱を注ぎ、努力を続ける人々こそ、未来を切り拓く鍵を握っています。



日本ボタナー株式会社

昭和36年 準朝日広告賞 15段